

# 令和6年度 学校関係者評価委員会

小松島市 立江小学校

1 期日 令和7年2月8日（土） 13:30～

2 場所 立江小学校 校長室

3 出席者

【学校関係評価委員】 5名（立江小学校学校運営協議会委員）

立江協議会会長 池渕 彰 様

立江公民館館長 垂水 明 様

祇園囃子伝承教室会長 森本 利雄 様

民生委員児童委員 江崎 敬 様

しらさぎ育成会代表者 浅利 悦史 様

【学校職員】 2名

校長 高原 俊英 教頭 稼勢 浩子

4 進行次第

- ① 学校長あいさつ
- ② 学校評価結果の説明
- ③ 意見交換

5 協議内容(委員からの主なご意見)

- ① web回答についての確認(対象・質問内容・回答方法等)
- ② 読書について
  - ・「よく読んでいる」がどの程度か分かるように、選択肢に冊数を入れてはどうか。
  - ・校内で「多読賞」に取り組んでいるようだが、読んだ冊数だけでなく、感想や印象に残った場面や言葉などを紹介することも評価の一つにしては。
  - ・市立図書館の積極的な活用も今後継続していきたい。
  - ・本校に限らず、他校においても同じような課題が生じていると考えられる。市内の学校で共通した質問により検証してみてもどうか。
- ③ E項目「よくわからない」に回答した保護者が多い。テストの点数は数字として表れているけど、指導の様子や学校生活の様子についての質問は評価しづらいと考えられる。
- ④ 統計的に分母が少ないので振れ幅が大きい。数字を見て一喜一憂する必要はない。学年の中で細かく分析していくことにより、見えてくる物があるだろう。
- ⑤ 分からないことを質問する児童の割合が毎年課題になっているようだが、分からないことを解決する方法としてAIの活用も一つとして考えてもよいのでは。AIによって気軽に解決できた数も関心がある。
- ⑥ あいさつについては、リーダーとなる子を育てることによって他の子にも良い影響を及ぼすだろう。他学年との交流も増やしながら取り組んでみては。
- ⑦ 子どもの宿題を見ていると、PCの世の中になってからか、数の概念が低くなっているような気がする。物の大きさや長さ、重さなど画面を通して学ぶのではなく、実物を見たり触ったりする活動も大切にしていきたい。
- ⑧ 業務改善や休みの取り方については、学校だけでなく企業や他の職業においても「仕事の魅力」として重要である。
  - ・年休の取得率が低い傾向があるので、休みを取りやすくする工夫を考えたい。
  - ・業務改善については、児童数・職員数・世帯数の減少にともない、行事の効率化をはじめ教育活動の見直しをしていく必要がある。しかしながら、毎年同じような調査や一人以上の参加を義務づけられる出張が多いことが負担となっている。